

全科協ニュース

Japanese Council of Science Museums Newsletter

全国科学博物館協議会 東京都台東区上野公園 国立科学博物館 ☎110 Tel.5814-9857・9858 Fax.5814-9898 平成6年5月1日発行(通巻第135号)

特集 博物館職員現職研修 (ミュージアム・マネジメント研修)

博物館職員現職研修(ミュージアム・マネジメント研修)は、全国科学博物館協議会(川村恒明 理事長)及び国立科学博物館の主催により、東京大学教育学部の協力を得て平成5年11月30日(火)～12月1日(木)の3日間、延べ24時間、国立科学博物館を主会場として、途中、東京文化会館や東京大学教育学部に移動しながら、全国の科学系博物館等に勤務する館長、副館長、課長等の管理部門職員46名の参加で実施された。

以下この事業の概略について紹介する。

◎博物館職員現職研修(ミュージアム・マネジメント研修)の趣旨

我が国は現在、追い付き方近代化の終焉、近代文明の終焉、戦後の終焉という歴史的に未曾有の転換に直面している。国民意識は物質的豊かさから文化的、精神的豊かさへ、ライフサイクルは「一生同じ会社で働き続ける」単線型から「人生途中で多様な選択をする」複線型へ急速に移行しており、教育システムも学校教育体系から生涯学習体系へ変革することが社会的に強く要請されている。

こういった変革の時代において博物館に対する期待やその果たすべき役割は一層増大し、これまでの博物館の在り方を抜本的に見直し、新しい時代に対応できる大胆なマネジメント能力が必要不可欠になってきている。にもかかわらず、我が国の博物館はこれまで、管理運営や経営についておろそかにしてきた傾向がある。

すでに、欧米では、法律、経営、心理学、マーケティング、マスコミュニケーションなど多岐にわたる内容を組み入れた「ミュージアム・マネジメント」が大学の講座あり、実践的研究や人材育成を積極的に展開している。

今回の研修は、このような社会的要請に対応しつつ、博物館の現状を幅広い観点から理解することに重点をおいて、マネジメント能力の向上をめざすために日本ではじめて実施されたものである。

◎募集対象、定員、参加状況

当初は、科学系博物館に勤務する館長、副館長、課長等

の管理部門職員に40名という定員であったが、日本全国から多数の受講申込者があったので、受講者の決定にあたっては、できるだけ定員枠の拡大をはかり、厳正な選考をおこなった。その結果、全国20の都道府県から40館(園)及び教育委員会・46名の受講があった。

参加者の内訳は下表のとおりである。

	総 合		自然史系		理工学系		そ の 他		合計
	公立	私立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	
館長、副館長			4	2	8	9			23人
部長、課長等			2	4	2	2			10人
係長等	2		1	2		1	7		13人

—参加者内訳—

◎プログラム全体について

今回のプログラムは、博物館の専門家はもちろんのこと、高等教育機関や民間企業などから多彩な講師を迎え、多様な視点から博物館の経営理念を明示し、博物館経営の現状を理解するとともに、新日本フィルハーモニーの特別演奏会を鑑賞する機会を提供したり、懇親会を実施するなど、生涯学習時代に期待されるミュージアム・マネジメント能力を、総合的にひろい観点から育成するという趣旨で企画、実施された。

プログラムの概略は次表のとおりである。

主要研究事項	主 な 内 容	研 修 方 法
博 物 館 特 論	自然科学の発展と啓蒙	講 演
博物館基礎理論	1 生涯学習社会の展望 2 科学教育の課題と博物館	講 義 講 義
博物館経営概論	1 ミュージアム・マネジメントの意義 2 海外における博物館経営の現状	講 義 講義と質疑応答
博物館経営管理論	博物館の組織と職員構成	講 義
博物館経営実践論	1 博物館とボランティア 2 博物館の施設設備・資金 3 生涯学習時代における博物館事業の企画・運営 4 展示の企画と実施	講義と質疑応答 講義と質疑応答 パネル・ディスカッション 事例発表と研究協議(分科会)
	5 博物館情報ネットワークシステム論 6 博物館地域社会論	[選択研修] 講義・視察・研究協議
特 別 鑑 賞	交響楽団定期演奏会の夕べ(会場:東京文化会館)	

— プログラム概略 —

◎内 容

○理事長挨拶

全国科学博物館協議会理事長 川村 恒明(国立科学博物館長)氏から、生涯学習社会への移行に伴う博物館の役割の増大に伴う全国科学博物館協議会の組織改革の必要性およびマネジメント研修の意義が指摘された。

特に音楽鑑賞を正規のプログラムに組み入れたことに関して、知性と感性とひらめきを相手にしている点においては美術館も博物館も同業種であるという視点にたつことの必要性が明らかにされた。

また、問題提起として、現在、長期の大改修工事に入っている国立科学博物館のかかえる問題点や21世紀の国立科学博物館のもつべき理念などが具体的にあげられた。



○博物館特論「自然科学の発展と啓蒙」

理化学研究所所長 有馬 朗人

はじめに、今日の博物館が果たすべき役割として、①自然を観察する喜びやものごとを発見する感動を提供すること、②生涯学習として新鮮な情報を提供することにより豊かな人格形成に貢献することが強く求められていることが指摘された。

オックスフォード、ケンブリッジ、ハーバード大学等を参考に諸外国では大学に博物館が設置され、それらが重要な役割を果たしていること、またスミソニアンミュージアムのひとつのブランチにおいても国立科学博物館と比較して職員数が2倍以上、植物園等は30倍以上になることなどの具体的データを基本に諸外国と比較して、日本では博物館が軽視されていることが実証された。そしてその原因として明治以降のキャッチアップ近代化で実学や応用科学が重視され、基礎科学が今日まで軽視されてきたことが明らかにされた。

今後、我が国が文化国家として基礎科学の面で創造性を発揮するためには、動物、植物を含めた分類学にも本格的に取り組むべきであり、博物館もその重要な役割を果たしていくことが強く期待されている。そのための最重要課題は人の充実である。ひとつの提案としてハーバート大学等で実践されている学芸員の教育システムを導入してゆく必要があることが指摘された。

○博物館基礎理論「生涯学習社会の展望」

東京大学教授 天野 郁夫

ライフサイクルの転換に伴って、仕事の世界と教育の世界を往来するリカレント教育や生涯学習の時代が到来したが、その背景には学校教育や単線型教育社会に対するアンチテーゼがあったことを理論的に分析した。

ところが、文部省によって生涯学習が提唱され、行政レベルの展開が行われるようになって、生涯学習は社会教育になりその革新的理念は喪失させられてしまったことが具体的に指摘された。

生涯学習のアンチテーゼである学校教育は、①文字革命と学校教育の誕生、②印刷文化の進展と学校教育の大衆化、③産業革命以降の学校教育のシステム化及び肥大化というように文字文化とともに誕生し進展してきた。

そして現在情報革命の進展による図像文化の大革命、コンピュータの出現による情報の個別化は、文字文化に革命的転換をもたらしている。そういう意味からもそれを基盤としてきた学校教育は危機に直面しており、もう一度原点にかえて生涯学習の理念を明確にすることの重要性が確認された。

○博物館基礎理論「科学教育の課題と博物館」

宇都宮大学教授 奥井 智久

21世紀に向けて、学校教育を学校だけで考えるのではなく、子どもの良さをのばしていくという視点から家庭教育も社会教育も一体となって考えていかねばならないという観点から博物館が果たすべき役割について考察された。

第1に、社会教育機関としての博物館が検討すべきこととして、①プロセスを重視した体験学習を導入することの必要性、②自分で企画・立案し自分で実施するプログラム

の導入が指摘された。

第2に、学校週5日制度の導入に伴って博物館が果たすべき役割は重要性を増大しており、それに対しては利用者のニーズにあわせつつも個性的プランニングを展開することで博物館の個性をアピールすること、博物館は学校教育で異端となった子どもに独創性、創造性のきっかけを与えるべきことがあげられた。

第3に、これからの科学教育の課題は自然や科学について一方的に知識を伝達することに偏るのではなく、自然や科学の楽しさ、面白さを発見することのできる教育が大切であることなどが具体的に明示された。

以上の観点から、これからの展示・説明のあり方等について①入館者に魅力を感じさせるような内容、②基本的考え方、ストーリー性をもつ展示、③入館者にわかりやすい説明と表示、④静的展示から動的展示、応答型から活動型への転換、⑤展示ローテーションの更新、⑥友の会・リピーターへの働きかけが重要になることが指摘された。

○博物館経営概論「ミュージアム・マネージメントの意義」

茨城県教育庁参与 中川 志郎

我が国の博物館では、これまで個別の管理についての取り組みはなされてきたが、幅広い経営という側面からの取り組みが不足していたことが、博物館白書のデータなどから説明された。

ミュージアム・マネージメントの具体的な取り組みとして、①新しいメディアとして重要な役割を果たすミュージアムグッズ、②第2、第3の学芸員として管理部門職員、売店の売り子等との情報の共有とサービスの供給など、諸外国の実例が紹介された。

博物館の目標としては学術、教育、文化があげられてい



るが、博物館が今後社会のニーズに対応していくためには文化的側面にEnjoymentの配慮を加えた取り組みが必要である。学術を重視する博物館が32%を占めるにもかかわらず、生涯学習を重視するのは2%にすぎない。

そして、博物館の現状を意識改革してゆく必要性がイコムの倫理規程などから示され、新しいミュージアム・マネジメントの枠組みとして①強いリーダーシップの重要性、②環境問題への配慮、③博物館相互のネットワークの充実などが具体的にあげられた。

○博物館経営概論「海外における博物館経営の現状」

里見 親幸

シカゴの「シカゴ科学博物館」、シアトル科学館といわれている「太平洋博物館」、フィラデルフィアの「自然科学博物館」、シカゴの「フィールド自然史博物館」、ニューヨークの「自然史博物館」のアメリカの代表的な5つの博物館についての詳細なデータから「博物館の運営においてどのような自助努力をしているか」という問題意識にたって、収支の構成、博物館のマーケティング、博物館の評価といった視点から考察が行われ、今後経営管理のうえで我が国の博物館が参考とすべきことがいくつか指摘された。

特に、博物館のマーケティングとして検討すべき項目としては、①博物館のマーケティングツール、②博物館マーケティングの目的、③プロダクト、プレイス、プロモーション、パクスメント、プライスなどのマーケティング5P、④プロダクトを市場全体に売る妨げになっている要因のチェック、⑤ターゲットとするグループの構成があげられた。

○博物館経営管理論「博物館の組織と職員構成」

京都橘女子大学長 千地 万造

最初に博物館の設置目的として、①歴史を共有し、これからの生き方を考えること、②文化財を共有し楽しむこと、③地域の文化を活性化すること、④自然とともに生きるために人権・平和を訴えること、⑤科学と技術を生活にいかすこと、⑥科学を楽しみ、未来への愛を支えること、⑦生命と自然の大切さを訴えることがあげられた。

それを達成するため、博物館は常設展や企画展、閲覧、調査、研究、資料の収集、保管、情報の提供を行わなければならないことが指摘された。

そして博物館の活動の中心となるのは研究活動であり、資料であるが、それは地域教育活動を取り込んだものでかつ市民のニーズに対応したものである。そのことが大阪市立自然史博物館の事例をまじえながら具体的に解説され、調査や研究、資料の収集はあくまでも市民に対するサービスの基礎づくりであることを学芸員も管理者も認識しなければならないことが明らかにされた。

最後に今後の博物館の組織と職員構成について①サービス分野別職員構成の導入、②担当事業別にグループを編成する委員会制度、プロジェクト制度の導入、③学芸員の処遇として主任制の導入、④教育的配慮にたってボランティアを採用すること、などがあげられた。

○博物館経営実践論「博物館の施設設備・資金」

江ノ島水族館長 堀 由紀子

江ノ島水族館の40年間の試行錯誤の経営史、特に博物館の設備、資金の展開に焦点をあてた報告が行われた。

①創設期における特許事業方式（民間活力の導入）の成功、②レジャーの多様化、大型化による水族館衰退期における組織改革と経営の合理化、③環境に左右されない経営への体質改善とリストラ（目標管理方式やC Iの導入）など、これまで「自主、自立の精神、独立不遷の精神」をもって運営に臨んできた江ノ島水族館の成功と失敗の施策の紹介が行われ、今日の博物館が学ぶべき教訓が示された。また、最近の大型水族館の大量動員の傾向とメンテナンス、水族館の社会的役割である自然保護と施設のあり方等今日の博物館がかかえる課題が明示された。

○博物館実践論「博物館とボランティア」

国立科学博物館次長 沖吉 和祐

生涯学習が注目された背景として、社会の成熟化、社会の高度化、評価の多元化など経済社会が転換に直面していることを具体的に指摘しつつ、「学ぶ姿にひかれます」「会いたいのは新しい自分」、「偏差値君よさようなら」というキャッチフレーズがあげられ、これからの生涯学習推進の課題としてあげられるのは①生涯学習のターゲット、②現代的課題への対応、③ボランティア活動の推進であることが示された。

特に生涯学習から生涯学習という時代の転換によりボランティアの重要性が増大している中で、国立科学博物館で

行われている教育ボランティア制度についてその意義と実践上の課題が指摘された。

○博物館実践論「生涯学習時代における博物館事業の企画・運営」

斎藤報恩会自然史博物館専務理事	斎藤 温次郎
東京大学助教授	鈴木 真理
名古屋市科学館学芸課長	三輪 克
国立科学博物館教育部長	大堀 哲

「生涯学習社会における博物館事業の企画と運営はどうあるべきか」という視点から、自然史、理工、研究者のそれぞれの立場から創造的な討議が行われた。

検討されたのは、①学芸員の不足数を補うための展示解説のメディアを駆使した工夫、②博物館全体の中で教育事業の位置づけの問題及び教育の概念についての問題提起、③社会への変化と参加者のターゲットの設定について、④博物館相互の連携及び異種施設との連携のためのカリキュラムの開発、⑤学芸員、職員及びボランティア養成の問題、⑥従来の枠組みにとらわれない先導的事業の開発、⑦博物館の理解者、リピーターを増やすための施策等についてであった。

○博物館経営実践論「理工系博物館における展示の企画と実施」

科学技術館サイエンスメディア開発部長 山田 英徳氏から基調報告が行われた。

はじめに、理工系博物館の展示の特徴として①原理、法則、現象を伝えること、②構造、機能を伝えること、③プロセス、システムをとりあげること、④種類、物性を伝えること、⑤トピック展示、⑥歴史、未来を一つの時間軸でとらえることを列挙し、それらの展示の内容、紹介の方法がバラエティーに富んでいること、また展示の手法として視覚、聴覚、触覚、嗅覚などを駆使した参加型が多いことなどが指摘された。

科学技術館の展示のリニューアルの具体的プロセスについて解説後、展示が入館者にどれだけ有効に利用されているかということを念頭において、小中学生を対象を限定した真岡市科学センターにおける基本構想から完成に至るまでの試行錯誤についての報告が行われた。

そして、それを題材に、①展示更新と予算の制約について、②参加体験型展示のかかえる問題点、③EnjoymentからAmuseumへの転換などについての討議が展開された。

○博物館経営実践論「自然史系博物館における展示の企画と実施」

北九州自然史博物館長 太田 正道氏から基調報告が行われた。

はじめにプレゼンテーションをわかりやすく説明した秋吉台科学博物館の展示テーマと展示構成について紹介があり、展示目的、自然史系博物館の展示の在り方などが定義され、その観点から自館の企画展示の展示計画から開催までの具体的事例が紹介された。

それを基本として、①特別展の企画の在り方、②常設展示の有効利用をめざした教育普及事業の活性化、③展示における地域性などの反映、④学芸員の展示に対する意欲と努力などについて意見交換が行われた。

○選択研修

12月2日（金）千葉県立中央博物館において「博物館情報ネットワークシステム論」の現地研修、12月3日（土）川越市立博物館において「博物館地域社会論」の現地研修を選択で実施した。

実際に目にしたものに対して説明をうけ、質疑するという形態は博物館経営を直接的、効果的に理解できる有効なプログラムであった。

◎研修記録（ミュージアム・マネージメント）の発刊

現在、今後の博物館の円滑な運営に資するため今回の研修記録をとりまとめた「ミュージアム・マネージメント」（仮称）を作成しており、全国科学博物館協議会加盟館及び科学系博物館関係機関に配布する予定である。

◎まとめと今後の展望

今回は、はじめての研修ということで生涯学習時代における博物館の経営理念に重点がおかれた内容であった。今後は経営戦略など企業経営的観点から資金の確保、税制の効果的運用、人事管理、リゾート法等関連法令の活用、集客作戦など実践的側面に焦点をあてて内容の精選をはかりたい。また、選択機会の拡大、芸術鑑賞の充実、標本製作の実習等多彩かつ効果的な研修方法を検討し実施していきたい。

平成 6 年度事業計画総会で決定

平成 6 年 3 月 2 日 (水)、名古屋市科学館において、平成 5 年度第 2 回総会が開催されました。今回の出席館数は 64 館、委任状提出館数は 120 館で、6 年度の事業計画及び収支予算が決定されました。

これによって、平成 6 年度の事業活動は、拡充や新規事業の実施、さらに 5 年度に引き続き、石橋財団からの助成金により「科学系博物館における新メディアの活用・開発に関する調査研究」を行うなど、一層の充実を図ることになりました。以下にその内容を御紹介します。

<加盟館園の状況>

	平成 4 年度末	平成 5 年 2 月 28 日現在	増減
正 会 員	166	205	39
購読会員	11	14	3
維持会員	19	28	9
計	196	247	51

<平成 6 年度事業計画>

①理事会

年 2 回開催する。期日：第 1 回 平成 6 年 6 月中旬、
第 2 回 平成 7 年 1 月下旬。会場：国立科学博物館

②総 会

年 2 回開催する。期日：第 1 回 平成 6 年 6 月中旬、
第 2 回 平成 6 年 3 月上旬。会場：第 1 回 国立科学博物館、第 2 回 仙台市。

③博物館職員現職研修(ミュージアム・マネージメント研修)

博物館経営者としての力量を高めるために、博物館の現状を幅広い観点から理解するとともに博物館の管理・運営に関する専門的・実践的な知識・技術についての研修を行う。期日：平成 6 年 11 月～12 月 (3 日間程度)。

共催：国立科学博物館。

④海外の科学系博物館視察研修

アメリカの科学系博物館における展示技術、教育普及活動等について視察研修を行う。5 年度に引き続き正会員を対象に研修援助費を支給する。期日：平成 7 年 1 月。14 日間。

⑤研究発表大会

博物館活動の充実に資するため、展示、教育普及活動、研究活動等に関する成果について、発表及び研究協議を行う。期日：平成 6 年 3 月 (第 2 回総会時) 予定。会場：仙台市。

⑥巡回展等実施準備調査 (新規)

会員館園の共同企画による巡回展等の実施に向けて、その準備調査を行う。委員：6 名

⑦データブックの作成・配布

「全科協 加盟館園活動データブック」(仮称)を作成し配布する。

⑧会員相互の協力事業

会員館園が実施する特別展、企画展、移動展、標本資料の貸借等に関して、相互に協力して実施する。

⑨「全科協ニュース」の発行

年 6 回、A 4 版 12 ページ。編集事務を担当する委員館として、国立科学博物館のほか名古屋市科学館、神戸市青少年科学館、NHK 放送博物館、福岡県青少年科学館、愛媛県立博物館等が予定されている。

⑩科学系博物館に対する入会案内及び普及広報

新設の科学系博物館等に対して入会の勧誘を行うほか、全科協の活動について、広く広報を行う。

⑪科学系博物館における新メディアの活用・開発に関する調査研究(新規)

新メディアを展示に利用した先進施設や博物館等における新メディアの利用に関する実態調査と、科学系博物館における新メディアの活用のためのソフト開発研究を行う。石橋財団の助成金により特別会計として実施し、このたび助成金額が決定した。

<平成 5 年度収支予算> (単位：千円)

〔収入〕	前期繰越金	762
	会員会費	3,712
	参加費	8,000
	雑収入	698
	寄付金等	3,500
	助成金 (特別会計)	3,000
	収入合計	18,672

〔支出〕	理事会・総会費	480
	博物館職員現職研修費	2,000
	海外博物館視察研修費	8,000
	研究発表大会費	826
	巡回展等実施準備調査費	412
	データブック作成費	413
	全科協ニュース発行費	1,779
	新メディアの活用・開発 に関する調査研究	3,000
	予備費	1,762
	支出合計	18,672

その他

事業活動の一層の充実を図るため、財源の多元化について、日常的に努力していく。新規財源確保の見通しが立った場合には、事業及びその実施の内容等を含めて、事務局が理事館と相談しながら進めていく。

＜会費規程の改正＞

組織基盤の確立と充実した事業活動の展開のため、会費規程を改正し、右記のとおり会費を設定する。

	6～7年度	8年度～
正会員	15,000円	20,000円
都道府県・指定都市立 その他	7,500円	10,000円
購読会員	3,000円	4,000円
維持会員	50,000円以上	50,000円以上

以上、平成6年度の事業計画等が決定しました。加盟館園の皆様の御理解と御協力をお願いしますとともに、事業への多数の御参加をお待ちしています。（事務局）

国立科学博物館の特設掲示板について

このたび、国立科学博物館では、本館地下「かはくカフェ」前に掲示板を設置し、随時、全科協加盟館の企画展等のポスターを入館者の方に紹介することになりました。

現在、消防博物館、横浜こども科学館、姫路科学館、広島市江波山気象館、阿蘇火山博物館ほか16館の館園から御提供いただいたポスターを掲示しています。

各館園で企画展等のポスターを作成された場合には、下記までお送りくださるよう、皆様の御協力をお願いします。

〒110東京都台東区上野公園 7-20 国立科学博物館

普及課 普及事業係 担当：多田・橘川

「日仏科学博物館・展示交流共同プログラムについて」

………ラ・ビレット科学産業都市からのお知らせ………

特別展や企画展を開催している科学館の悩みは「次は何のテーマで進めるか」という内容もさることながら、時間に追われゆっくりとテーマを追及できないことであろう。人、モノ、カネ、時間、情報が不足がちな科学系の博物館にとっては、ちょっとした朗報があるので、この場をお借りしてご紹介したい。

世界でも最大規模を誇るパリの「ラ・ビレット科学産業都市」では、毎年、数回の特別展が開催され、常設展示を訪れる来館者を含めると540万人が特別展を見学している。この特別展示は終了後、海外に巡回されており、日本では1991年夏、東京新宿の新都庁舎で「水」をテーマにしたラ・ビレットの特別展示が公開されたこともある。

今回、「日仏博物館・展示交流プログラム」と題し、何テーマかの展示品をセットで貸与する計画を進めてきた。以下、このプログラムについて概要を述べたい。

■展示テーマと点数

展示のセットは規模別に、小規模、中規模、大規模と分類され、それぞれ200平方メートル、200-300平方メートル、400平方メートル以上と必要スペースが異なる。

小規模展示としては、「数学の世界」「コンピュータ・スピリット」「バイオポップ、生物の応用工学」「ブループラネット、青い地球」などのテーマがあり、中規模展示としては「イメージ・見ることは知ること」「水」、大規模展示は「金：魅せられし金の世界」「ワインとぶどうの木」がある。小規模展示の場合、点数にして30ないし40点、パネルもほぼ同数、参加型の展示がほとんどである。

これらの特別展示は、主催館が独自の展示を付け加えることによって、さらに大きなイベントの基礎となる。特別展示にセミナーや映画プログラムを加えたり、教育的なディスプレイを施したり、来場者の受け入れ方に工夫を凝らすことによってさらに豊かなものになる。

日本での開催にはフランス側で翻訳等準備するため心配ない。展示のテーマによっては展示用のテキストと実際に必要な運営のマニュアルなどを用意している。

■開催までのステップ

開催を希望される科学館は、ファクシミリや電話で、あるいは文書で何回か打ち合わせした後、開催希望の期間を仮予約する。展示会が開催されることに決まれば、展示貸出の契約書を締結することになるが、契約書はフランス語または英語(日本語訳付)による。しかし、日本の博物館側の事情によっては、海外との契約が難しい館もあるかも知れない。その際は、日本側の窓口である日本科学技術振興財団・科学技術館にご相談いただきたい。契約後は、展示予定期間から逆算し、展示物発送の日程、設営日程、撤去予定日、返却期日等のスケジュールにそって進める。運搬はフランスから航空便で通関手続きを含めおよそ1週間。設営は1テーマおよそ4-5日、撤去2日間である。

中規模の特別展示は準備と下見(2人)の担当者をフランスから現地に送る必要がある。ただしこの場合、科学産業都市ではそのうち1人分の費用を負担する。小規模展示の場合は1名分の派遣に伴う費用をご負担いただく。

■貸出料金について

貸出料金は、それぞれカタログに詳細に記しているが、小規模展示の場合、1テーマ1か月60,000フラン(約108万円)、2か月目は30,000フランである。また展示物は、常設用に購入することも可能。展示期間によっては購入した方が格安になる場合もあるからである。ただし、運搬費については正確に見積りしなければならない。

■日仏共同で開催する場合の費用負担

中規模以上の展示を日本側で負担する費用は次のとおりである。原則として、小規模展示も同様である。

・展示借用料、技術者2名派遣のうち、1名分の航空運賃(往復エコノミークラス)、宿泊費用、保険料、展示物運搬費

日本で開催するに当たって、フランス側でも費用を負担する。つまり、これは、日本で開催される特別展示会はフランス側の負担によって、通常予算の半分で展示会が開催されるということを意味する。「日仏共同プログラム」の名はその辺のところから名付けられた。

フランス側で負担する費用は次のとおり。

・展示解説パネル翻訳料、マニュアル翻訳料、技術者派遣の1名分の航空運賃、展示解説のレクチャーおよびトレーニングの人件費、契約書日仏語翻訳料

■仮予約について

1994年ないし1995年に共同プログラムを希望される館は早めにご一報いただきたい。その理由は、世界各国からも問い合わせがあり、「科学産業都市」では早めにスケジュールの調整を行ないたいと考えているからである。8月までに仮予約をされた館は貸出料の10%割引くことにしている。

■問い合わせ先 資料・カタログ請求

ラ・ビレット科学産業都市

国際開発局・国際部 水嶋英治

電話 パリ (1)40.05.81.98 FAX (1)40.05.82.37

または日本科学技術振興財団・サイエンスメディア開発部
鈴木直樹、谷本嗣英

電話 03-3212-2670 FAX 3212-2230

感動環境 創造会社です。

NOMURA

株式会社 乃村工芸社

本社:東京都港区芝浦4-6-4・電話03-3455-1171代 千108

営業種目/ディスプレイおよび建築の調査・コンサルティング・企画・設計・デザイン・プロデュース・演出・制作施工



INTERIOR/EXTERIOR/DESIGN/EQUIPMENT
ONY KOBO CO., LTD.

東京都千代田区神田神保町2-40-5 東久ビル
TEL (03) 3221-1102代 FAX (03) 3221-1185



動物園/水族館/博物館
企画・設計・施工

——新規加盟館の紹介——

真珠博物館

〒517 三重県鳥羽市鳥羽1-7-1 TEL 0599-25-2028 (株)御木本真珠島

真珠博物館は、養殖真珠誕生の地である鳥羽市の御木本真珠島に、昭和60年9月開館しました。

四つの展示室からなる館内は、『人と真珠——その関わりを考える』をテーマに、人文・科学・産業の各分野から、真珠の魅力を紹介するものです。

1階は「真珠のできるしくみ」「真珠の生産と流通」のコーナーで、アコヤ貝を中心に、その生態や真珠のできる原理を理解した上で、真珠養殖のプロセスへと進みます。映像・模型を配し、要所で実演を交えた楽しい空間を提供しています。

二階は「天然真珠の時代」「養殖真珠の時代」に分け、天然真珠を用いたアンティークジュエリー、御木本の美術工芸品などがご覧いただけます。

また、関連の図書コーナー・質問カウンターを設け、来館者に利用していただくよう努めています。

開館時間 8:30～5:00 (冬季 8:45～4:30)

入 場 料 大人1200円・小人600円



——核入れ手術風景——

感じる科学

動刻

▲恐竜ロボット
ティラノサウルス

▲人体型ロボット
コスモ博士(国研科学技術館)

文化施設・商業施設・ディスプレイ企画・設計・施工

kokoro 株式会社ココロ

〒205 東京都羽村市神明台4丁目9番1号
TEL0425(30)3911(代)・3939(営業)
FAX0425(30) 3900・3927(営業)

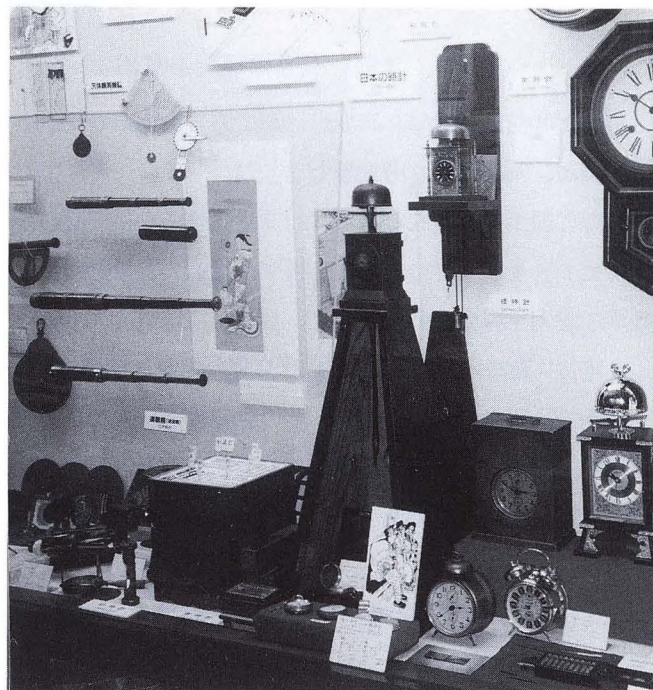
時の資料館

〒630 奈良市西新屋町28 TEL. 0742-26-5187 FAX. 0742-22-5716

「時」と人間との関わりを展示する珍しい資料館。人間が定住し農作業を始めた時、最初に必要としたことは季節を知ることであつたろう。一本の棒の影の変化からそれに気付いたのが最初である。日時計が人類最初の科学機器と言われる所以である。その日時計から天体観測機器、水時計、砂時計、香時計、機械時計、暦と実物や文献を展示している。

1988年4月奈良シルク博の折、通称・奈良町の活性化を模索する市に協賛し、館長のイギリス留学の経験から、ミニ資料館構想を提起して開館した。新聞、雑誌に広く紹介され、遠方からの来館者が多い。

開 館 時 間 10時～16時、月・木及び年末・年始休館
入 館 料 小学生以上 100円。展示品の絵ハガキ付。
近鉄奈良駅 JR奈良駅よりそれぞれ徒歩15～20分
常 設 展 示 200～300点、収蔵資料 約4000点
和時計学会を主体とした研究態勢を持っている。



——日時計から暦まで「時」の歴史の展示——

世界最大の恐竜博開催記念特別企画



「恐竜発掘体験」・DINO TOUR は、恐竜に関する多くの著書と研究で知られる小島郁生博士を同行講師に迎え、恐竜博物館として世界的に知られているロイヤルティレル古生物博物館見学、さらにDinosaurs Provincial Park (恐竜の谷)を訪れ、日本では体験できない恐竜化石発掘を体験していたくスペシャル・ツアーです。

企画 世界最大の恐竜博実行委員会
後援 朝日新聞社、カナダ・アルバータ州
協賛 日本航空
協力 ロイヤルティレル古生物博物館、
ドラムヘラー市、エアカナダ

大きな不思議が待っている！
JALで飛ぶ「恐竜発掘体験」DINO TOUR

「恐竜発掘体験」・DINO TOUR DINO&カナディアンロッキーの旅7日間

旅行代金(おひとり様)

288,000円

旅行期間

Aコース/1994年6月27日(月)～7月3日(日)・7日間

Bコース/1994年6月28日(火)～7月4日(月)・7日間

■食事/朝5回、昼4回、夕3回付
(食事条件に機内食は含まれません)

■添乗員/全行程同行します

■募集人員/各コース共80名

■最少催行人員/40名

■申込締切日/1994年5月20日(金)

■利用予定航空会社/日本航空
(エコノミークラス利用)

■利用予定ホテル/ドラムヘラー：
ドラムヘラー・イン又は同等クラ
ス、カルガリー：シャトー・エア
ポート又は同等クラス

日 程

①東京(成田発)→バンクーバー→カルガリー→ドラムヘラー(泊)②恐竜の谷にて恐竜発掘体験(泊)③ロイヤルティレル古生物博物館見学、ティレル博物館専属研究員による「DINO 特別セミナー」アルバーター・ビーフのバーベキューによる「DINO Friendshipパーティー」(泊)④カルガリー動物園恐竜コーナー見学(泊)⑤カナディアンロッキー、コロンビア大氷原、レイクルーズ(泊)⑥バンクーバー(機内泊)⑦東京(成田着)

詳しい旅行条件はパンフレットをご請求ください。

お問い合わせ先

運輸大臣登録一般旅行業第20号 (社)日本旅行業協会会員

旅行主催 近畿日本ツーリスト

神田海外旅行支店
〒101 東京都千代田区内神田2-16-11 内神田渋谷ビル4F

☎03-3252-6861

一般旅行業取扱責任者 平山幸男

担当：DINOプロジェクト：内藤、笠原

●営業時間/9:30～17:30(月～金) 9:30～13:00(土)

044094032808

科学リテラシー教育の会議

英国科学博物館で1994年11月7～9日に開催予定の「市民の科学理解のための国際会議」について紹介します。

これは、北アメリカ、ヨーロッパ、アジアの関係者により実施されている「市民の科学理解に関する国際専門家会議」というプロジェクトの一環で、1992年秋には東京の科学技術館で「科学技術の理解と普及および教育に関する国際シンポジウム」が、また1993年にはシカゴで同様のシンポジウムが開催されました。今回のテーマは「科学リテラシーのための教育」で、1日めには科学リテラシーの目標、2日めには学校以外の教育機関の役割、そして3日めには博物館教育の潮流がとりあげられます。

わたしはプロジェクトのメンバーではなく、東京でのシンポジウムに出席して初めて科学リテラシーを知りました。「リテラシー(literacy)」とは識字、読み書きの能力のこと。科学リテラシー(scientific literacy)の内容について見解は定まっていますが、おおむね「一般市民に必須の、科学や技術に関する知識や能力」を意味し、この視点から博物館での教育を考えることは意義深いと思います。

会議の定員は170名と限られているので早めの申し込みを勧めています。参加費は150英ポンド、宿泊は各自で準備のこと。口頭発表(討論時間を含めて30分以内、審査あり)も受け付け中。問い合わせ、申し込み用紙の請求は、Ms. Suzanne Boothby, Education for Scientific Literacy Conference, Education Unit, Science Museum, Exhibition Road, London SW7 2DD, United Kingdom.

電話(+44) 71 938 8131, ファクス(+44) 71 938 8250まで。

昨年秋、同じ英国科学博物館で開催された博物館の展示研究の会議に出席する機会がありました。話題の中心は展示評価法(evaluation)でしたが、日本の博物館学ではこれまでほとんど取り上げられてないことばかりで、独自の情報収集の必要性を強く感じました。一方その会議の中で、日本の自然系博物館がどんな活動をしているのか外国からはほとんど見えないと言われました。今回のような会議に日本から出席することは、そんな点でも意味のあることと思います。手元の資料はお見せできますので、お問い合わせください(電話 043-265-3111)。 林 浩二(千葉県立中央博物館)

著作権実務講習会

——博物館のコピーサービスのために——

博物館利用者からコピーサービスの依頼を受けたことがありますか? 図書館等が自ら所蔵している文献資料(著作物)の複写は、いくつかの条件(著作権法第31条)を満たせば可能です。条件の一つに、館に「司書又はこれに相当する職員」が置かれていることという項目があります(同法施行令第1条の3)。

司書資格を新たに取得するためには長期の研修を受講しなければなりませんが、同法施行規則第1条の2では、「司書に相当する職員」となる資格を与えるための要件としての講習会を規定しています。それが「図書館等職員著作権実務講習会」という制度で、文化庁が毎年実施しています。通例、夏休み期間中に3日間の日程で、東日本と西日本の2か所で開催され、著作権法の解説とともに、図書館等の現場における実際上の対応について説明、最終日には筆記試験と、後日提出のレポートもあります。公立博物館であっても、職員の中に司書有資格者あるいはこの実務講習会修了者がいなければ、コピーサービスはできません。

平成6年度の講習会の実施については5月上旬の官報で

告示されます。また、文化庁では毎年、これとは別に広く一般に対して著作権の普及を目的とした講習会「著作権セミナー」を全国7地区で開催しています。

様々な著作物を取りあつかったり、自ら著作物を作成したりと、博物館職員にとって著作権に習熟しておくことは不可欠でしょう。一方、著作権法も随時改正されており、常に情報収集に努める必要があると思います。

著作権全般については、文化庁著作権課(電話 03-3581-1276)で問い合わせに対応しています。

林 浩二(千葉県立中央博物館)

全科協ニュースVol.24.No1の記事の訂正について

前号の新規加盟館紹介の中で「太地町立くじらの博物館」の料金表の数字に誤りがありましたので、訂正します。

団体割引	30人～ 99人	1割引
	100人～299人	2割引 → <u>1割5分引</u>
	300人～	3割引 → <u>2割引</u>

「科学系博物館のネットワーク化に関する調査研究」

全科協では、平成5年度、石橋財団助成金及び文部省の民間社会教育活動振興費補助金を得て、「科学系博物館のネットワーク化に関する調査研究」(委員会会長 斎藤温次郎 斎藤報恩会専務理事)を実施しました。

調査研究委員会では、昨秋実施した「資料整理及びデータベースの作成と利用に関する調査」「企画展の企画・実践・成果等に関する調査」の分析と研究の成果を、全科協共有の情報として活用を図るため、「資料情報のネットワーク化に関する調査研究報告書」及び「企画展・共同企画展実施事例集」にとりまとめ、このたび各加盟館園に配布したところです。内容としては、各館園の所有するデータベース、目録等の所在情報やコンピュータの館内の接続状況の具体例、企画展・共同企画展の実施状況、平成6年度以降の実施計画、貸出し可能な展示資料等をまとめています。今後の全科協の資料情報及び事業のネットワークの形成のための基礎資料として、また具体的な情報交流・相互支援のための資料として、御活用いただければ幸いです。

なお、この事業は単年度事業ということで一応終了しますが、全科協では、今後もネットワークの形成について継

続的に調査研究を行い、科学系博物館園の連携強化を図るため努力していくこととしています。引続き、加盟館園の皆様の御協力をお願いします。

全科協加盟館園の状況(平成6年1、2月分)

入 会

<正 会 員> 所沢航空発祥記念館(埼玉県所沢市)

<維持会員> 株式会社 鬼工房

日本アイ・ビー・エム株式会社

平成6年2月28日現在の加盟数

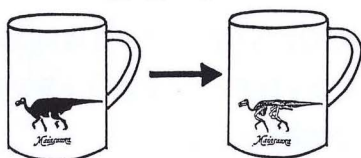
正会員205館、購読会員14館、維持会員28館

事務局からのお知らせ

「全科協ニュース」を皆様の情報交換の場として御活用ください。展示更新に伴う資料や情報の提供、標本等の借用希望、事業案内、御提案、御意見など、皆様の原稿をお待ちしています。

また、従来1月号に組んでいた広告特集をとりやめ、今後はお申し出を受けて随時掲載していくこととしました。博物館・科学館等の展示、教育普及活動等に関係ある企業で広告掲載の御希望がありましたら、事務局までお問い合わせください。

恐竜マグ



あたたかい飲みものを入れると
骨格図にかかります!!

株式会社 アンティー

TEL 03-3467-6555

FAX 03-3467-6568

- * ミュージアム・ショップグッズの企画・製作・販売(マグカップ、Tシャツetc.)
- * 特設売店の代行

〒151
渋谷区富ヶ谷1-17-9
パークハイム302

編集後記

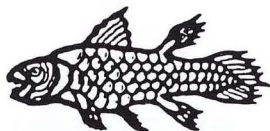
今回は、国立科学博物館が編集を担当しました。

平成5年度は、全科協が新たな出発を期した年でした。事務局スタッフが不慣れで、新しい事業活動の進め方ひとつひとつに思い悩み、失敗も多々ありました。ひとえに加盟館園の皆様方、特に理事館、調査研究委員会委員の方々等の御協力と御支援に支えられた1年であったと思います。平成6年度は、全科協の連携強化と活発な事業展開を目指して、事務局一同、地道な努力を続けて参りたいと思いますので、加盟館園の皆様の御協力をお願い申し上げます。

美術

は く 製

〈各種生物〉
剥製・骨格標本・レプリカ
加工/販売/リース



有限 東洋近代美術研究所

製作所 〒272 千葉県市川市本北方2-18-1 直通 ☎0473-37-5678

☎0473-37-5883

FAX 0473-38-1978

☎0473-74-1564

本 社 〒272 千葉県市川市国分5-3-25



記念品 や 学習教材 として見やすく考案されています。

- 貴館のオリジナルグッズとして、館名やロゴマーク等がスリ込めます。
- 実用新案として、太陽高度早見窓を設けました。(実新公開No.平5-90529)
- カラフルでとても親しみやすくしました。
- 季節の大曲線等の見つけ方を指示しました。

(有) ティ・エム・グラフィック

東京都江東区亀戸6-1-15コロネード日馬601

TEL 03-3636-3018